

# 歌う 原発避難の苦悩

阪神大震災や東日本大震災の被災地を歌声で励ますコンサートを続けてきた兵庫県芦屋市の檀美知生さん(68)と村嶋由紀子さん(67)夫妻が、福島第一原発事故後に関西に避難してきた人たちとミュージカル「雪の女王」を制作、来年4月、芦屋市内で上演する。「放射能汚染から子どもを守りたい」という被災者の願いを、童話風の物語に託して描く。夫妻は「被災者の苦勞を共感できる作品にしたい」と願い、出演者を募集している。

【柳楽未来】

夫妻は早稲田大学の学生時代、合唱サークルで知り合った。卒業後に結婚し、檀さんは会社勤め、村嶋さんは、神戸市内で中学校の社会科教諭として勤務する傍ら、地元の合唱団などで活動してきた。1995年の阪神大震災を機に復興支援コンサートを始め、東日本大震災でも親を亡くした若手県陸前高田市の遺児らとミュージカルを制作した。

自然界の象徴の「雪の女王」が地上の放射能汚染に怒り、子どもたちを助けるために連れ去り、放射性物質が生物に無害になる10年後まで眠らせようとする。科学者や親たちが子どもたちの救出に向かうというストーリー。原発に絡む作品を制作したことはなく、市民グループの集會に参加したり、公演で知り合った避難者の声を聞いたたりして脚本を練った。村嶋さんは

今年1月、原発事故のため福島県などから避難してきた人たちが芦屋に招いてミュージカルを公演。「今も原発事故で苦しむ、私たちのことを

## 芦屋の夫妻 来年ミュージカル上演

### 福島も被災者も参加

「原発や避難への考えは立場によって異なる。その違いを超越して共感できる作品にしたい」と話す。

汚染への不安から県外に自主避難し、孤独を感じる親子がいる一方、避難に踏み切れず福島にとどまる家族がいることも知った。檀さんは「被災者はそれぞれ苦しい決断を下し、苦悩を抱えている。一緒に舞台上に立つことで、励まされたい」と語った。



上演は来年4月2日、芦屋ルナ・ホールで。練習は始まっており、福島、埼玉から兵庫県などへ避難した4家族6人が参加する。福島第一原発の西約45キロにある福島県三春町から、兵庫県西宮市に自主避難した河村幸子さん(35)は「福島で毎日、放射能への不安と向き合いながら暮らしている人たちのことを伝えたい」と話す。

ミュージカル出演の問い合わせは村嶋さん(090・9116・8122)。

ミュージカルの公演に向け練習する村嶋由紀子さん(左)と檀美知生さん(右)兵庫県芦屋市で今月5日、西本勝撮影